

人生回顧 80歳を迎えて過ぎ去った日と思う

清水三四郎のKUWAIT物語(回想記)

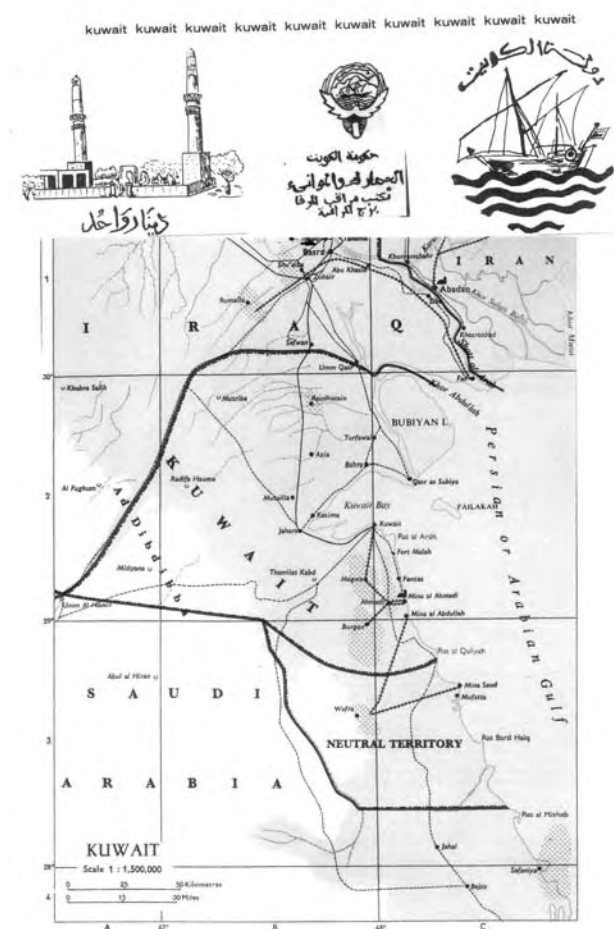
海の測量屋 清水 三四郎



私は42歳の夏初めてアラビアを訪ねた。当時は未だ地中海に面したバイルートを経由してクエートの空港に降りた。当時この空港は未だ廣くて殺風景であった。通関に手間取ったのは酒類持込禁止のため、税関が厳しい手荷物チェックをするからだと分かった。イスラム宗教では酒は禁物である。空港から迎えの車に乗り街のホテルに向かう砂漠の中の長い道は夜だというのに熱風が吹き込んで車の窓は開けられないことを知った。車の運転手に聞くと昼なら車のボンネットで鶏卵の目玉焼きが出来ると脅かされた。

この年の初め、生まれて初めて海外の仕事で西アフリカの大西洋に面したギニア共和国に出かけ半年間生活をしてきた。帰国間もない8月、突然電話が飛び込んできて中東の湾岸国クエートに海の測量調査の話があった。「専門的な仕様が分からないから1週間くらいの予定で来てほしい」と言う話で気軽な気持ちでトランク一つ持参してこの空港に降りたのである。

人生どこに縁があるのか、落とし穴があるのか分からないとはこのことである。この国の電気・水省(MEW)がサルミヤ海岸から、18km沖合に浮かぶアレキサンダー大王の島として人口も少ない遺跡の島を観光開発しようと計画、そこで本土から電気と水を供給する大きなプロジェクトが計画された。そのための海上測量調査の話が進めら



1975.10.14. 再76年9月から150日間滞在



アラビアにはクウェート、バーレーン、アブダビ3年間に計6回延412日滞在す



現地では電気・水省の仕事を行った



KUWAIT本土～ファイラカ島間海峡の調査



れていた。日本商社の若きエリート営業マンが其の話を耳にし、ものにしたいと日本の本社に連絡してこの話が急に私の測量会社に飛び込んできたのである。

1週間の予定で来たので長期滞在する準備はして居なかった。早速MEWに打合せにいくと、9月になるとラマダンに入る、担当者は家族を連れて1ヶ月間程ヨーロッパ旅行に出かけるので、すぐに着手し仕事を進めてくれ。休暇明けに測量の結果を聞く事にしようと話が進んでしまった。担当者はMEWの若手技術者でMr.ドワイジーである。

日本商社のクエート所長も40歳前の若手やり手営業マンで、現地人で顔の利きそうなオジサンと若い秘書の3人でアラビア全域を営業エリアにして頑張っている辣腕者である。「清水さんこのまま残ってすぐ測量準備にかかって下さい」と言われた。さて、困ったものだと思案した。大阪の小さな測量会社には人もいない、測量機材を現地に送るなど手続きだって簡単ではない。第1一人で国際線乗り換えながら此処まで来れる人間は居らん。

ホテルはアンバサダホテルで自由がきき、日本人も何人かNECの社員が滞在していると情報を掴んだ。測量をすると内業もあるので人数の他に

倉庫・製図室も契約した。結果大阪から2週間後に2人の社員と音響測深機、潮流観測用流速計、採泥器、検潮器・測量・測角用トランシット・レベル・六分儀に三かん分度器など一応最低限必要な機材と2名の人員がヤット到着したのでこの年の年末まで120日間此処に滞在して測量を実施した。

しかし、この過程ではいくつもの難題がありよくも克服できたものと今では不思議に思い出す。其の1、清水が日本へ帰って別の2人を連れてくるのならよいが、電話1つで来てくれと言われた会社では希望者も無く困ったようである。社長命令で年長の橋本氏と若手の黒田君が指名され、大阪伊丹空港でバイルート経由クエート迄の航空券を渡されたそうである。飛行機は国際線で外国の航空会社だったようである。外国語も話せない不安で隣席の商社マンにバイルート空港での乗換えの方法を聞いてメモにしていたが、ホテルでは初めての経験で不安のため食事もとらず我慢して翌朝クエート行きのガルフ航空機に乗ったそうである。空港に私が出迎えると、姿を見つけるとほっとしたのか涙して私に飛びついてきた。

其の2、この度の調査は海底電線敷設を目的としているので様々な仕様が組まれていた。近年中東の油田リグと製油所間の海底ケーブルが事故を起こし、其の原因を調べると原因不明ながら其の



切断口にサメの歯型と思われる傷口が見つかった
そうである。そこでこの度の調査仕様にこの海域
にサメが出現するかサメを見た場所・時間など漠
然とした調査内容があり其の対策に梃子摺った。
また海底電線と並んで送水管の埋設計画がありパ
イプの腐食調査を目的とした、海底の硫化水素の
確認やバクテリアの存在等今まで日本国内で調査
したことの無い項目が対象とされていた。海底試
掘の埋まり調査などもあり海底土質調査、粒度分
析・土の粘着性分析も必要になった。そこで地元
クウェート大学の専門研究者の指導を受ける事にな
った。海外で初めての経験である。調査報告用に海
底地形図や海底底質分布図・潮流図など私の専門
とする項目について調査海域について様々な工夫
を凝らした図面を作成したので、大学に持参する
と大変興味深く賞賛を得た。1枚頂きたいとの申
し出もあり、MEWの許可を得て提供する事にな
った。エジプト人の地質専攻教授であった。

成果の報告は現地で英文報告とされ、文章と図
面、資料集に分冊された。MEWの大臣室に張り
たいので余分にもう1枚最終報告総合図を希望さ
れ、帰国まで多忙であったが、これほど現地で評
価を受けるのが測量者として嬉しかった。

其の3、KUWAIT滞在120日間は参加した測量
者それぞれに大きな自信と変化を与えた。あのホ
テルで食堂へ行くことの出来なかった若者が、最
後の頃になると街の中を歩いて図面のコピー屋を
探し出し必要部数を焼き増し、報告書の製本屋を
見つけたり、欲しいものはこの国では何でも手に入
る事を身につけた。酒が飲めない厳しい宗教イス
ラムの国であるが、街中にある中華レストラン
の地下にある部屋に行くと、ボトル1本買い取る

と中国式の急須（キユース）の中にウイスキーが
出る事を知った。茶のみ茶碗にウイスキーを注い
でお茶を飲むように飲酒した。経済・宗教警察に
見つければ国外退去の厳しいおきてがあることは
百も承知である。店の主人は、この中華急須をテ
ーブルに持ってきて、「この中身はお前が持って
きたものだよ」と念押しをして金を取って帰る。
まさに本音と建前の異なる商法である。気をつけ
て周囲を見回すと、大勢のクウェート人が皆同じ方
法で禁酒国の掟「オキテ」を破って酒を飲んでい
た。

其の4、イスラム教では祈りの月にラマダンが
ある。およそ1月続くのであるが、日の出から日
が沈むまで、飲み食い一切禁止である。測量は日
中40度と気温が高くても毎日の事なので休むわ
けには行かない。1日中の作業中水も飲めない。
食事も出来ないと身体が持たない。現地の人を使
用して仕事をするのでこの期間は気を使い我慢期
間であった。

其の5、その後の異変

私はKUWAIT政府電気水省が施工する「ファ
イラカ島プロジェクト」の海底調査を実施したの
で、当然海底ケーブルを製造した後の敷設工事測
量にも参加したいものと
考えていた。2年後の
1976年海底電力ケーブル
工事と本土から島への送
水管敷設（埋設）工事が
分離して国際入札が行わ
れた。送水管工事は当時
西ドイツの会社が受注し
た。



クウェート沖のブイ



クウェート市街



ファイラカ島海底調査



ファイラカ島の港

大阪の会社で机に向かって工作中、新聞を見ていた総務部長が突然に「清水専務、KUWAITの電気・水省発注の海底ケーブル工事を現地の〇〇物産が落札したと日経新聞に出ていますよ」と大声をあげた。「まさか、そんな筈は無い」と私は本気でそう思った。

慌てふためいて新聞を見ると間違い無い。私はその時全身の力が抜けた。悔しくて成らなかった。私を指名して使ってくれた△△商社がこのたび行われた国際入札で負けたのである。私はどうしようもない事であるが諦めきれない思いだった。私はこのことで4~5日悩んだ。私はこの海域を一番熟知しているので、この120日間の調査で知り得た海域情報を自身が活用したいのである。私がやらなければバーレーンに海洋測量基地を持っている英国のデッカ社が測量をやるだろうと想像ができた。世界のデッカ社にとられる位ならと清水は勝負をかけた。早速電話帳で調べ、〇〇物産大阪本社に電話をかけて見た。「4~5日前の日本経済新聞の記事でKUWAITの海底ケーブル工事を御社が落札されたそうですが、この海域事情に詳しい者ですが、話をお聞き願えないでしょうか？」と、先方とは初めての電話で一面識もない。大阪の小さな測量会社からの電話である。最初は貴方は何者か？程度の対応であったが、先方もこの男の話、嘘か本当か、系列企業のケーブル製造・施工会社に一応どんな反応を示すか知らせて見ようとなったらしい。このようなことは通常あり得ない商談である。紹介者も仲立ちも居ない。また顔を見たこともない。今まで一度の取引もない男との話である。数日後、今度は東京から電話が私にかかってきた。京浜にある日本6大ケーブル製造会社の技術部長さんで一流企業に通じたのである。この商談が成り立つかどうか分からないが、如何したら私の本心が相手に伝わり、分かって頂けるかと自問した。上京する清水の鞆の中には数枚の資料を入れていた。最大の武器はKUWAIT-FAILAKA島間の海底調査総合図のA4版の縮小図1枚と現地で作業中に撮影したア

ラビアの漁夫3人と並んで撮影した写真である。もう1枚は私の所属する測量会社の事業経歴書であった。「この商談が成り立てば私の体に染みついている海域すべての体験、情報を責任を持って提供できることをお約束します…」と。この日この場で、「契約します」と技術部長は私に言うてくださった。早速1976年6月4日から約3週間。KUWAITで現地踏査をし、問題のある場所の確認調査をしたいので同行と案内役を願いたいと申し込まれた。この翌年本工事測量は93日間に及び無事竣工することができました。引き続きアラビアのアブダビや南米のオリノコ川の測量。工事にも指名され幸運な人生体験をすることができました。

終



クウェート 右がサルミヤ岬



1974年作製の地形図

